

労働運動アーカイブの収集および資料室の運用整備について

1. 趣旨

連合は2019年に結成30周年を迎える。30年というのは一つの時代の節目と考えられる。そういった時機において労働運動の歴史はもとより、連合結成の原点と追求してきた価値観を学ぶことは次代のリーダー育成の基盤として重要である。構成組織などが独自に運営してきた資料室は閉鎖されたものも散見され、連合結成に関わった人たちも、今後少なくなっていくことも想定されるなか、貴重な資料が散逸する前に、その適切な収集・保存及び活用を図ることはナショナルセンターとしての重要な責務であり、喫緊の課題である。

そこで、将来的には独立したアーカイブ・センターとしての運用も視野に入れつつ、15期の重要課題（第2回中執）の一つとして、連合労働運動アーカイブを構築する。当面は、連合運動30年で蓄積された運動の記録（文書のほか宣伝器材、映像資料など）を収集・整理するとともに、ユーザビリティの向上のための運用整備を行う。

2. 具体的な対応

(1) 労働運動アーカイブ構築に向けた資料収集

労働運動アーカイブ構築に向け、連合運動30年で蓄積された運動の記録の収集を行う。

収集する対象については、労働関係図書、刊行物、新聞記事、労働組合（産別）史、ポスター、パンフレット、写真、スライド、ビデオ、バッジ、リボン、大会代議員章等の現物資料とする。

収集方法は、連合ホームページ、チラシ等で連合構成組織、地方連合会を通じて呼びかけるとともに、退職者連合、OB会等を通じ、個人で所蔵している者に対しても、寄贈を依頼することとする。

また、社会・労働関係資料センター連絡協議会に属する各資料センター（大原社会問題研究所、東京大学社会科学研究所、労働政策研究・研修機構（JIL-PT）等）に対し、書誌や現物資料の寄贈を依頼するとともに、イベント時における各センターが所持するアーカイブのレンタル等についても連携をすすめる。また、連合関係団体に対しても協力を呼びかける。収集した資料については保管場所（地下1F）を確保し、適切に保管する。

(2) 企画展等の開催

連合30周年を前にして「歴史から学び、次の飛躍につなげる」機運の醸成のため

め、企画展、講演会等についての企画・運営を行う。具体的には、「**連合アーカイブ、歴史から学ぶプロジェクト**（仮称、主査：逢見会長代行）」を設置し、協議する。

（3）資料室の運用整備

「**所在情報・蔵書検索システム（OPAC）**」および「**情報館**」システムを導入し、アーカイブとしての運用基盤の整備をはかる。（※）

また、教育文化協会と連携して教育文化協会ホームページ「**本と資料の紹介コーナー**」で過去に紹介された本と文献について保管し、貸し出し等利用を促す。

※「**所在情報・蔵書検索システム（OPAC）**」・・・キーワードからの一括検索を可能にするシステム、「**情報館**」システム・・・バーコードによる貸出状況の把握ができるシステム

3. 今後のスケジュール

1/15 第10回常任役員会

1/16 第6回三役会

1/18 第5回中執

1/23 第2回地方連合会事務局長会議

1月下旬、HP・アットマークれんごうにて募集開始

以 上